

旅する画家

2019年7月18日(木) → 9月8日(日)



13. 緑響く

1階 展示室 白馬とともに

No.	作品名	原画制作年 ※は制作年	寸法(cm)	材質・技法	取材地
1.	夕風 (朝涼)	1949(昭和24)年頃 ※	36.6×51.4	絹本彩色	青森県八戸市、種差海岸
2.	風吹く浜	1972(昭和47)年	31.0×45.5	セリグラフ	石川県、能登
3.	草青む	1972(昭和47)年	20.9×31.1	リトグラフ	デンマーク、ヒレロード
4.	芒野	1972(昭和47)年	25.9×37.0	リトグラフ	—
5.	早春の丘	1972(昭和47)年	37.9×53.0	リトグラフ	—
6.	白馬の森	1972(昭和47)年	41.5×60.5	リトグラフ	富士山五合目のブナ原生林
7.	湖澄む	1972(昭和47)年	30.3×45.4	木版画	ドイツ、オーバー湖
8.	森装う	1972(昭和47)年	37.7×53.0	リトグラフ	長野県戸隠村
9.	夕明り	1972(昭和47)年	37.1×53.1	リトグラフ	長野県諏訪市・下諏訪町、八島湿原
10.	若葉の季節	1972(昭和47)年	43.0×61.0	リトグラフ	ドイツ北部
11.	綿雲	1972(昭和47)年	37.3×53.1	リトグラフ	—
12.	草原放牧	1977(昭和52)年	30.5×42.2	木版画	中国、新疆ウイグル自治区
13.	緑響く	1982(昭和57)年	38.5×53.0	木版画	長野県茅野市、蓼科高原
14.	緑の詩	1983(昭和58)年	105.0×210.0	リトグラフ	—

目録番号は、陳列の順序と必ずしも一致しません。

東山魁夷略年表

1908年(明41) 7月8日、横浜市生まれ。1911年、神戸市に転居。本名「新吉」は、坂出市樫石島出身の祖父の名をもらったもの。
 1926年(大正15) 18歳 東京美術学校(現・東京藝術大学)日本画科入学。夏、友人三人と木曾川沿いに御嶽山まで登る。
 1931年(昭6) 23歳 東京美術学校研究科に進み、結城素明に師事。雅号を「魁夷」とする。
 1933年(昭8) 25歳 東京美術学校研究科修了。8月渡欧しベルリン大学でドイツ語を学ぶ。
 1934年(昭9) 26歳 第一回日独交換留学生に選ばれ、ベルリン大学哲学科美術史学部入学。
 1935年(昭10) 27歳 父の病気の知らせを受け、留学期間1年を残して帰国。
 1945年(昭20) 37歳 召集をうけ熊本に配属。終戦後、千葉県市川市に移って制作を再開。
 1947年(昭22) 39歳 第3回日展に出品した《残照》が特選を受賞、風景画家として立つことを決意。
 1950年(昭25) 42歳 第6回日展に《道》を出品、好評を得る。

1956年(昭31) 48歳 日本芸術院賞を受賞。
 1959年(昭34) 51歳 第2回新日展に、樫石島を描いた《暮潮》を出品。
 1962年(昭37) 54歳 4～7月まで北欧4カ国(デンマーク、スウェーデン、ノルウェー、フィンランド)を写生旅行。
 1968年(昭43) 60歳 皇居宮殿壁画《朝明けの潮》完成。「朝明けの潮／京洛四季」展開催。
 1969年(昭44) 61歳 4～9月までドイツ、オーストリアを旅行。文化勲章受章、文化功労者に選ばれる。
 1973年(昭48) 65歳 「白い馬の見える風景」展開催。
 1975年(昭50) 67歳 唐招提寺御影堂の第一期障壁画《山雲》《濤声》を奉納。
 1976年(昭51) 68歳 詩画集『コンコルド広場の椅子』発行。
 1980年(昭55) 72歳 唐招提寺御影堂第二期障壁画の三題《黄山曉雲》《揚州薫風》《桂林月宵》を奉納。
 1989年(平元) 81歳 改組第21回日展に《月光》を出品。
 1998年(平10) 90歳 第30回日展に《月光》を出品、最後の日展出品作となる。
 1999年(平11) 91歳 5月6日、逝去(90歳)。

2019年度 第2期テーマ作品展 旅する画家



1. 残照

2階 展示室 魁夷の道

No.	作品名	原画制作年 ※は制作年	寸法(cm)	材質・技法	取材地
1.	残照 ^{ぼんしょう}	1947(昭和22)年	43.5×60.6	リトグラフ	千葉県君津市、鹿野山
2.	道 ^{みち}	1950(昭和25)年	61.0×46.5	リトグラフ	青森県八戸市、種差海岸
3.	秋径 ^{しゅうけい}	1958(昭和33)年	33.0×45.8	セリグラフ	長野県軽井沢町
4.	朝の内海 ^{あさのうちうみ}	1959(昭和34)年頃 ※	41.2×37.8	紙本彩色	岡山県倉敷市鷺羽山より望む、櫃石島(香川県坂出市)
5.	ウプサラ風景 ^{うすらけいけい}	1963(昭和38)年 ※	60.3×92.4	紙本彩色	スウェーデン、ウプサラ
6.	雪の後 ^{ゆきあと}	1964-66(昭和39-41)年頃	33.8×48.7	木版画	京都市北区、中川付近
7.	碧湖 ^{へきこ}	1969(昭和44)年	38.0×27.5	リトグラフ	ドイツ、ケーニヒ湖
8.	朝陽図 ^{ちやうやうず}	1975(昭和50)年	50.3×65.5	リトグラフ	奈良県、吉野
9.	コンコルド広場の椅子A ^{ひろばいす}	1976(昭和51)年 ※	23.6×17.6	エッチング	フランス、パリ
10.	波濤 ^{はとう}	1976(昭和51)年	47.0×65.5	リトグラフ	山口県長門市、青海島
11.	灘江月明 ^{なみこうげつめい}	1978(昭和53)年	30.3×43.0	木版画	中国、桂林
12.	沼の静寂 ^{ぬませいじゃく}	1983(昭和58)年	30.5×44.0	木版画	オーストリア、インスブルック
13.	冬の旅 ^{ふゆたび}	1989(平成元年)	41.2×60.6	複製画	秋田県鹿角市、湯瀬
14.	明宵 ^{めいしょう}	1991(平成3)年	33.0×46.0	リトグラフ	熊本県、阿蘇
15.	月光 ^{げつこう}	1998(平成10)年	43.0×61.0	リトグラフ	山形県山形市、蔵王

目録番号は、陳列の順序と必ずしも一致しません。

版画の豆知識

版画にはさまざまな版の形式と技法がありますが、木、金属、石、絹といった版材でつくる版形式は、大きく4つ(凸版、凹版、平版、孔版)に分類できます。

木版画(凸版:とつはん)

浮世絵などで伝統的に用いられてきた技法。木の板を彫刻刀などの刃物で削り、デコボコを作ります。凸(トツ)の部分に絵具を塗り、紙をのせて圧力をかけて擦ります。凸の部分に塗った色だけが紙に写し取られます。

版画の余白部分には何らかの記号が記され、それぞれに意味があります。

「○/▲」= エディションナンバーといい、分母(▲)には発行部数、分子(○)には通し番号を意味する数字が入ります。(例)「54/250」

「E.A.」= épreuve d'artiste (仏)作家保存用 「A.P.」= artist's proof (英)作家保存用 「H.C.」= hors commerce (仏)非商業用、作家や工房が保存する

銅版画(凹版:おうはん)

木版画とは逆に、銅板に鋭利な刃物でキズをつけ、凹(オウ)の部分にインクを詰め、紙をのせて圧力をかけて凹(オウ)の部分のインクを刷り取ります。銅板を直接削って描画する「直接法」と、酸溶液に浸けて銅を腐食させることによって凹みをつくる「腐蝕法(エッチング)」があります。

リトグラフ(平版:へいはん)

表面を平らに磨いた石灰石(石板)の上にクレヨンや油性のインキなどで直接描き、その上に弱酸性溶液を塗ると、化学反応によって描かれた部分は油分を引き付け、描かれない部分は水分を保持するという、油が水をはじく原理を利用した技法。作画した部分にだけインクがつくよう加工し、その上に紙をのせてプレス機で刷ります。

シルクスクリーン、セリグラフ(孔版:こうはん)

一枚の厚紙に適当な形の孔をあけ、その下に一枚の紙を置き厚紙の上から顔料を刷り込むと、顔料が孔を通り、その孔の形をそのまま下の紙にうつし取ることができます。この単純な原理から出発したのが孔版と呼ばれる版形式です。

ミュージアムトーク

展示室にて当館学芸員による作品解説を行います。

11:00~11:30(観覧券必要)

◎7月20日(土) ◎8月3日(土)

◎8月17日(土) ◎9月7日(土)

次回展覧会

秋の特別展

珠玉の吉野石膏日本画コレクション 華ひらく日本の美

会期=2019年9月14日(土)~11月10日(日)

休館日=月曜日(祝日の場合は開館、翌日火曜日が休館)

観覧料=一般610円



香川県立
東山魁夷せとうち美術館
Kagawa Prefectural Higashiyama Kai Seitouchi Art Museum

〒762-0066 香川県坂出市沙弥島字南通224-13

Tel.0877-44-1333 Fax.0877-44-0220 <http://www.pref.kagawa.lg.jp/higashiyama/>